

普及活動情勢報告

情勢報告（平成27年2月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

情勢報告

J A 四万十部会炭酸ガス及び電照栽培現地検討会



2月13日、炭酸ガス施用及び電照栽培の技術確立と普及推進を目的に現地検討会を開催しました。

普及所からは、今年の実証ほの途中経過を報告し、J Aからは、LED電照栽培の導入経費の説明がありました。

実証農家からは、炭酸ガス施用に併せて灌水量を増加した場合、収量は増加するが、葉露等が多くなり病害の予防が必要との意見を頂きました。また電照による増収効果を確認してもらったところ、農家の関心も高く、今後導入を検討するという農家が数多くみられました。

引き続き炭酸ガス施用装置や電照栽培の導入を予定している農家に対する栽培及び経営管理技術の支援を強化していきます。

J A 高知はた大正支所シントウ栽培講習会



2月6日、大正支所出荷場に12名のシントウ生産者が参加してH27年産に向けた栽培講習会を開催しました。

ほ場の選定から定植前の資材の準備、定植後の基本的な栽培管理について説明した後、H26年産の出荷実績に基づいたH27年産の出荷目標を生産者から提出してもらうことにしました。生産者からは、ほ場準備に向けた土壌分析についての要望が上がりました。

また、新たな取り組みとして雨よけ栽培の「エコシステム栽培」への取り組みについて協議していくことになりました。

普及所は生産者が掲げた出荷目標を達成出来るよう、現地検討会や巡回指導を行い支援していきます。

J A 四万十厳選‘にこまる’に合うおかず料理講習会



2月6日、J A 四万十厳選‘にこまる’のブランド化に向け、料理研究家の秋元薫先生を講師に招き、料理講習会を開催しました。

講習会には、生産者や関係機関17名が参加し、‘にこまる’に合う料理レシピの調理講習と試食、既存のおかずとの相性、お米の特徴を活かしたPRポイントについて意見交換しました。

参加者からは「米がしっかりして食べ応えがある。」「今日作った料理とも相性が良い。」などの声が聞かれました。

普及所は今後もJ A 四万十厳選‘にこまる’のブランド化に向けて、勉強会や販促活動等を支援していきます。

ブランド米の農業生産法人が設立



2月18日、米・食味分析鑑定コンクールにおいて連年の入賞を果たしてきた、仁井田郷米クラブが法人化し、株式会社四万十米クラブを設立しました。

これからは、四万十米クラブの経営基盤の安定に向け良質米生産と販売強化の取組を支援していきます。

床鍋が集落営農の法人設立総会



2月22日、床鍋農事組合法人の設立総会が開催されました。

組合員候補者28人全員が出席し設立を決定。4月に設立登記申請を行う予定です。

40代、50代の理事からは、法人化により集落の農地・機械施設・資金を集め、何年か先には担い手が農業で生活できる基盤を作っていきたいといった意見が聞かれました。

今後は、構想をまとめ、計画に落とし込む作業を支援していきます。

(株) サンビレッジ四万十の経営についての研修会



2月13日、(株) サンビレッジ四万十の今後の経営展開について、(株) モデルビレッジの小松氏を招き、経営の安定性や必要度などから当面力を入れるべき部門について助言を頂きました。

他部門に比較して不安定な農業生産部門(水稻、雨除けピーマン、ショウガ)の基盤確立が直近の課題であり、労力・資金等を集中してあたるべきであることが共有されました。

普及所は、今後も農業生産基盤の確立を支援していきます。